ボランティア団体フェア
「サマボラ2017！」
～知らない“自分”を
探す夏～

報告

2017/7/20-21

「サマボラ2017！」 in 首都大インフォメ

7月20日（木）・21日（金）の2日間、本学南大沢キャンパスにて、ボランティア団体フェア「サマボラ2017！～知らない“自分”を探す夏～」を開催しました。

学内外のボランティア団体にブースを出展してもらい、学生がボランティアのことをより身近に感じてもらうことを目指したこのイベントは今年で2回目。昨年と打って変わって屋外のインフォメーションギャラリーを会場に開催しました。また、今年も学生コーディネーターが企画・運営を担い、学生らしい様々な独自企画も盛り込まれました。両日とも晴れ渡った蒸し暑い天気ではありましたが、そのおかげもあって、およそ150人の学生が参加しました。

・準備編

今年で２回目となるサマボラを開催するにあたっては、昨年度以上に、学生コーディネーターが主体となってイベントを準備しました。5月に実施した学生コーディネーター企画「Greenフォト」を通して学んだことを活かし、ポスターや当日配布するパンフレットの作成をはじめとして、出展団体の選出やその団体との調整も行いました。

また、このサマボラは、第4期学生コーディネーターにとっては初めての自主企画。そんな彼らが積極的な意見を出せるよう、昨年度から活動している学生コーディネーターが、先輩として導きました。そのおかげもあり、「ボッチャ体験会」と「講話：私たちの復興と防災」の2つの特別企画が4期生から提案され、実現しました。

↑　実際のポスター

ポスターのデザインは3期生の市川さんと柳田くんが担当。明るくてボランティア活動の様子がよくわかるデザインのポスターを作ってくれました。

・団体ブース

ブース出展した団体は、2日間で合計14団体（学外団体10団体、学内団体4団体）。昨年度よりも2団体多く招きました。参加団体の活動分野も、「子ども」・「障がい児・者」・「国際」・「環境」・「スポーツ」・「路上生活者」・「高齢者」・「復興・防災」と多岐にわたり、幅広い学生が関心をもてる企画となりました。

また、昨年は7号館1階のスタジオで開催しましたが、今年は屋外のインフォメーションギャラリーで実施したため、ボランティアについて「関心はあるけど、1歩踏み出すきっかけがほしい」と考える学生にとって、非常に足を運びやすい場所で開催することができました。

ブース出展した団体の中には、独自のスタイルで学生に説明をしている団体もありました。本学の学生が活動に関わっている「スープの会」（路上生活者支援を行っている団体）のブースは、活動学生と団体職員、関心のある学生とで座談会を行う、という形式をとり、自分たちの活動が学生にとって伝わりやすいよう、気軽にブースを訪れることができるようにしていました。奥多摩にて森林保全の活動を行っている「JUON（樹恩）NETWORK」のブースでは、団体で作成している国産間伐材を用いた割りばしが用意され、普段私たちが多く使用している外材の割り箸との違いや活動の意義等について、実物を見ながら知ることができました。他にも、本学の「災害復興・都市防災研究室」のブースでは、被災地の避難所で実際に利用されている高さ2mくらいのパーテーションが建てられ、避難されている方の生活環境を少しでも良くするための取組を実際に体験しながら感じることができる展示がなされていました。

こうした様々な取組のおかげで、インフォメーションギャラリーを通る多くの学生が足を止めてくれました。このイベントを知らなかった学生やボランティアにそれほど関心がない学生にとっても、まずは様々なボランティア活動があることを知ってもらう機会になったのではないかと思います。

・特別企画ブース

イベントを企画した学生コーディネーター各自の関心に基づき、４つの特別企画も併せて開催しました。「ボッチャ体験会」と「オリンピッククイズ」、「講話：私たちの防災と復興」、「ハンドスタンプアート」です。

「ボッチャ体験会」は、スポーツボランティアプロ

「ボッチャ」体験会

パラリンピックの競技種目であるボッチャは、ボールをどれだけ的に近づけられるかを競うカーリングに似た競技です。今回の体験会には2日間で合計80名の学生が参加。シンプルな競技ゆえの奥深さと面白さを味わってもらうことができました。この特別企画は「スポーツボランティアプログラム」の学生が企画＆運営を担当しました。

お手製のオリンピッククイズ

3年後にひかえる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ですが、「オリンピックはなぜ始まったのだろうか？」「だれが始めたのだろうか？」といった疑問を解決し、東京2020大会をより楽しみにしてもらおうと「オリンピッククイズ」を実施しました。これを提案した学生コーディネーターが、自作のクイズを段ボールに貼り付けパネルを作成。学生や地域の方がクイズに挑み、楽しんでいただきました。

グラムに参加している学生たちと連携して実施。荒川キャンパスから道具をお借りし、道にプラベニヤを置いて競技環境を整えました。

また、「オリンピッククイズ」は、オリンピックに向けて、首都大生にもっと関心をもってほしいとの思いから企画。担当の学生コーディネーターが書籍やホームページで調べて作問し、本学オープンユニバーシティ特任教授であり、オリンピックに関する研究をされている舛本直文先生に監修していただきました。クイズに挑んだ方は「全問合ってた！」と喜んだり、裏側の解答を見て「へぇ～。そうだったんだ」と感心するなど、大変楽しんでいる様子でした。

「講話：私たちの防災と復興」では、福島原発事故に関して、国会事故調報告書をわかりやすく伝え、情報発信や対話の場づくりを行っている「わかりやすいプロジェクト」の方をゲストに招き、原発の是非等ではなく、「福島原発事故では何が起こったのか」「福島原発事故の教訓とは何か」を共有していただき、考える機会となりました。

「ハンドスタンプアート」は、学外団体の「ハンドスタンプアートプロジェクト」が行っている活動で、病気や障がいを抱える子どもたちへの応援の輪として「ハンドスタンプ」を集めています。その場ですぐできるボランティアとして、様々な方が参加してくれました。

（↓ハンドスタンプの様子）

・参加者からの声

「活気があってよかった」「フレンドリーな雰囲気だった」「ボランティアを身近に感じられるイベントだった」「ボッチャやオリンピッククイズが楽しかった」

・まとめ

人通りが多いインフォメーションギャラリーで開催したことにより、多くの人にボランティアを知っていただく機会になりました。一方で、後日、団体の方から「チラシを受け取ってくれた学生から連絡があった」という報告も一部あったものの、実際に活動につなげるには、もう少し別の工夫が必要だと感じました。ボランティアセンターの恒例行事として認知してもらえるよう、改善して来年につなげていきたいと思います。

【イベントを企画した学生コーディネーターの声Ⅰ】

学生コーディネーターとしてサマボラの企画運営に携わりましたが、これも一つのボランティアとしてやらせていただきました。僕がボランティアに対して求めているものは、「自分がこれをすることで、少しでも誰かが喜んだり助かったりする」と思えることです。

今回のサマボラは、ご参加いただいた多くの学生や団体の方に喜んでいただける企画となりました。そこで初めて充実していたと振り返ることができました。遅ればせながら、関わってくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。　（柳田 秀明）

参加団体などの紹介

ブース出展してくれた「東日本きずなプロジェクト」の皆さん

主な活動分野	団体名
学外団体	
子ども	八王子市立愛宕小学校
障がい児・者	八王子生活実習所　/　自立ステーションつばさ
国際	NICE（日本国際ワークキャンプセンター）　/　八王子国際協会
環境	JUON（樹恩）NETWORK　/　めぐみ野自然の会
スポーツ	東京八王子トレインズ　/　東京都障害者スポーツ協会
路上生活者	スープの会
学内団体	
子ども	SCOK（スコック）
高齢者	&TMU「みなみおおさまカフェ」
復興・防災	東日本きずなプロジェクト　/　災害復興・都市防災研究室
特別企画への協力	

わかりやすいプロジェクト / ハンドスタンプアートプロジェクト / 舛本直文先生（OU特任教授）

【イベントを企画した学生コーディネーターの声Ⅱ】

ボッチャは、ルールもわかりやすく、多くの人が楽しめる競技です。しかし、パラリンピックの正式種目ですが認知度は高いとは言えません。私がボッチャを知ったのも大学1年生の時に履修していた授業を通してでした。それまで知らなかったことがもったいない、知る機会の大切さを感じました。

そこで今回は、多くの人にボッチャを知ってもらうということを目標に企画。外での開催ということで、人目にも付きやすく多くの人に楽しんでもらうことができました。

たくさんの方に協力していただき、充実した体験会の実施ができました。ありがとうございました。　（神保　彩乃）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY